

日本教育工学会 FD ワークショップの改善

Improvement of JSET Faculty Development Workshop Design

根本 淳子 高橋 暁子 鈴木 克明
Junko Nemoto Akiko Takahashi Katsuaki Suzuki

熊本大学大学院 教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

〈あらまし〉 本発表では、FD 研修会をより充実した内容へと改善することを目的に、同じ内容で行うことが決定した研修会を FD 特別委員会の若手メンバーの協力を得て改善した実施案について報告する。

〈キーワード〉 高等教育 ワークショップ インストラクショナルデザイン FD

1. はじめに

日本教育工学会では大学教育の授業改善や教員の授業力向上に寄与することを目的に 2009 年度から FD 研修会（ワークショップ）を実施している。本発表では平成 24 年 2 月に実施した第 3 回での実践「大学授業デザインの方法・1 コマの授業からシラバスまで」(図 1) の実施結果を踏まえて改善して実施した第 4 回研修会について報告する。

2. FD 研修会の概要と第 3 回の実践結果

本研修会は、高等教育に従事する教員を主に対象とし、参加者が実践を見直し改善を行うことを目的とした。参加者は担当する授業のシラバスや授業資料（スライド・プリント・板書ノートなど）を持参し、それらをもとに授業の見直しや改善案について検討した。本研修用に開発した「授業設計の点検ワークシート」を用いてインストラクショナルデザインの視点を踏まえながら自分の実践を振り返り、改善案を洗い出していた（根本・鈴木，2012）。研修会は講義をしないで実習中心に行い、最初に認定条件を明示するなど、FD 研修会そのものに望ましいと思われる授業方法を採用するように工夫した。

研修参加者 29 名のうち最終課題を提出し合格した 17 名のレポートを分析した結果、意図した内容を踏まえた授業改善、特に目標と評価の重要性とそれを踏まえた方法を活かした授業改善案が作成されていることを確認

した（根本・鈴木，2012）。次回も同じ内容で研修会を実施すると委員会決定を受けて、研修の改善に着手した。

3. 第 4 回 FD 研修会に向けての改善案

第 4 回では、「授業設計の点検ワークシート」を用いて自分の実践を振り返り、ペアとグループを併用して改善点を互いに探っていくワークショップの骨格は継続することとした。その上で、第 3 回の研修会を振り返り、第 4 回の時間配分や流れを筆者らと委員会メンバーで合議の上、表 1 に示すように変更した。

プログラムの大きな変更としては、導入ワークを短縮化することで、インストラクショナルデザインの視点による授業分析の 3 つのセッションからリフレクションまでの時間を十分に確保した点である。

プログラム以外の主な改善点については、次項で説明する。

3.1. 事前課題の追加

第 3 回研修会の実践における課題として、全体的に時間が足りなかった点が挙げられた。その要因のひとつに、グループワークやペアワークにおいて、自分の授業内容・目標・方法等を初対面の相手に説明するのに時間がかかることが考えられた。また、委員会メンバーらと第 3 回の最終課題レポートを精査した結果、研修会で扱ったインストラクショナル

デザインの視点が、必ずしもすべてのレポートに活かされていないという課題も挙げられた。以上の2点を改善するため、第4回の実践においては、研修会のメインセッションで使用する『大学授業設計の点検ワークシート』（鈴木 2013）（図1）を参加者に事前配布し、自分の授業について記述した上で、当日持参してもらったこととした。この事前課題の導入により、当日の時間短縮が期待できるだけでなく、自分の授業をインストラクショナルデザインの枠組みでリフレクションした上で参加することになるため、本ワークショップにおいてより具体的な改善案を検討できることが期待できる。

3.2. 参考資料の改訂と事例の追加

研修会で扱ったインストラクショナルデザインの視点を最終課題レポートに反映されやすくするために、参考資料に例示を追加することとした。例示には、第3回研修会での成果や、特別委員会のメンバーのシラバス例などを用いることとした。このように具体例を追加することで、概念的な説明だけの資料よりも、参加者は自分の授業改善にインストラクショナルデザインの視点を取り込みやすくなると考えられる。

3.3. 講師役のフレキシブル化

テーマごとの全体説明役としても、特別委員会の若手メンバーを割り振った。説明役の方針として、レクチャーは短めにし、キーメッセージと資料の該当ページを示すこととした。これらの工夫は、講師に依存せずに誰でも講師役ができるようにすることを目指したためである。資料とプログラムがあれば、誰でもFD研修会が実践できる、汎用的な『FD研修会パッケージ』への発展を視野に入れた改訂である。

3.4. ファシリテータの配置

各グループに1人ずつファシリテータを配置することとした。これは、第3回の実践において参加者が議論に白熱するあまり時間を忘れる光景が観察されたことと、講師役の

レクチャーを極力少なくする方針から、参加者から講師や資料の補足説明を求められる可能性が高いためである。また、ファシリテータ用のプログラム案には、第3回の実践を踏まえ、参加者へ声をかけるタイミングなどのファシリテーションの注意点を追記し、誰でもファシリテータ役になれるように配慮したグループごとのファシリテータ役は、特別委員会の若手メンバーを割り振り、作業分担の協力を得た。

3.5. 多様な学習活動の組み込み

導入ワークにおいて、無線リモコンを利用したレスポンス・アナライザを使用して参加者の意見を聞く時間を設ける。これは参加者に多様な授業方法を体験してもらったことで、参加者自身の授業改善において講義形式以外の授業方法への転換を働きかける意図で取り入れた。

4. おわりに

本発表では、FD研修会をより充実した内容へと改善することを目的に、同じ内容で行うことが決定した研修会をFD特別委員会の若手メンバーの協力を得て改善した実施案について報告した。

今後は第4回FD研修会を実施し、その結果を分析した上で、改善の効果を探っていく。

謝辞

研修会の開催を支援いただいたFD特別委員会と、学会での報告等を承諾していただいた参加者各位に感謝致します。

参考文献

根本淳子、鈴木克明（2012.9）「FDワークショップ実践報告-デザイン力向上の支援を目指して-」日本教育工学会第28回全国大会（長崎大学）発表論文集 pp. 967-968

鈴木克明（2013）「大学授業設計の点検ワークシート」日本教育工学会第4回大学教員のためのFD研修会『大学授業デザインの方法-1コマの授業からシラバスまで-』配布資料

大学授業設計の点検ワークシート（記述式）

氏名 _____
記載日： _____年 _____月 _____日

視点		記述欄
科目名		
入口	1 誰に何を教えようとしているか（受講者数含む）	およその受講者数：（ ）人×（ ）クラス/学期 同科目の担当者：□いる
	2 それは何故か（前提・後続科目の有無を含む）	前提科目：□ない・□ある（科目名： ） 後続科目：□ない・□ある（科目名： ）
方法	3 どうやって教えているか（授業ルーチン含む）	※授業ルーチン=毎回の授業でやること、決まりごと
	4 それは何故か（講義形式をやめる可能性含む）	講義形式をやめる可能性：□やってない・□ある・□あるかも・□まずない・□続けたい
出口	5 単位取得の要件は何か（最終試験をやめる可能性含む）	最終試験をやめる可能性：□やってない・□ある・□あるかも・□まずない・□続けたい
	6 それは科目の目標と合致しているか（その理由含む）	□完全に一致している・□だいたい一致・□部分的にのみ一致・□一致していない・□不明
続けたい点は何か		
変えたい点は何か		

©2013 Katsuaki Suzuki, Ph.D. Kumamoto University

日本教育工学会FDセミナー

図1 大学授業設計の点検ワークシート

表1 FD研修会シラバスの改善対応表

2011年度(第3回)		2012年度(第4回)	
<事前準備>点検ワークシートに記入			
<午前>授業のデザインに関する問題意識の明確化と情報・課題の共有			
オープニング	導入+最終レポート合格基準の確認【全】(10)	オープニング	導入+最終レポート合格基準の確認【全】(10)
導入ワーク1	持ちこんだ課題についての議論【個+グ】(40)	導入ワーク1	持ちこんだ課題についての議論【グ】(30)
導入ワーク2	研究キーワードについての検討【個+グ】(35)	導入ワーク2	IDの前提についての議論【個+グ】(40)
導入ワーク3	IDの前提についての議論【個+グ】(25)		
ペアリング	午後のためのペアづくり(ペアができ次第昼食)	ペアリング	午後の活動のためのペアづくり(15)
<午後>最終レポートを意識した授業分析と改善案の検討			
ペアワーク	相手の授業内容をヒアリングしワークシートに書き込む【ペ】(40)	(昼食兼) ペアワーク	相手の授業内容をヒアリングしワークシートに書き込む【ペ】(昼食込みで80)
セッション1	資料を用いたワークシートの見直し(1)(目標と評価の視点から)【ペ】(40)	セッション1	IDの視点から大学教育を考える:解説【全】+資料を用いたワークシートの見直し【ペ】(30)
セッション2	資料を用いたワークシートの見直し(2)(方法の視点から)【ペ】(40)	セッション2	出口・入口:解説【全】+資料を用いたワークシートの見直し【ペ】(30)
グループワーク	ペアワークヒアリング報告【グ】(50)	セッション3	方法:解説【全】+資料を用いたワークシートの見直し【ペ】(50)
リフレクション①	個人リフレクション【個】(10)	リフレクション①	個人リフレクション【個】(15)
リフレクション②	全体リフレクション【全】(10)	グループワーク	ペアワークヒアリング報告【グ】(45)
クロージング	Q&A+補足+課題確認【全】(30)	発展ワーク1	研究キーワードについての検討【個+グ】(30)
		リフレクション②	全体リフレクション【全】+追加情報(10)
		クロージング	Q&A+補足+課題確認【全】(20)

*注:【全】全体,【個】個人,【グ】グループ,【ペ】ペア